

親しみやすさと特別感を兼ね備えた、シビックらしさの新たな体現。

新型シビックの開発にあたって考えたことは、“現代におけるシビックとはどうあるべきか”ということでした。歴代の歩みを振り返りながら、ふと思出したのは「一服の清涼剤」という言葉です。初代に向けられたこの言葉は、シビックが単なる移動の道具ではなく、爽やかな体験をもたらす特別なクルマであることを言い表していました。それを大切に受け継いできたからこそ、シビックはHondaを象徴するモデルへと成長しました。導いた答えは、新型シビックをいまの、そして、これからの時代にふさわしい「一服の清涼剤」にすることでした。

インターネットが行き渡り、SNSが当たり前となった現代を生きるわたしたちは、情報に対する高い感度を備えています。多くの人々が、自身の社会的責任や評価に敏感であると同時に、自然体の自分を魅力的に発信したいとも考えています。さまざまな国で行ったりリサーチからそう結論づけたわたしたちは、親しみやすさと特別感を兼ね備えることで、社会と自分が気持ちよくなる、爽やかなクルマをつくり上げることができると思いました。

日本の市街地から欧州の高速道路まで「操る喜び」を感じられる走り、洗練されたスタイリング、開放感のある室内空間、そして、細部まで行き届いた質の高い仕上げ。それらのすべてが、運転する人だけではなく乗る人すべてを爽快にし、新しい体験や豊かな人生を後押しし、喜びを拡大してゆく。新型シビックが、そうした存在になることを願っています。

■開発の様子



新型シビック開発責任者

佐藤 洋介 さとう ようすけ

本田技研工業株式会社 四輪事業本部
ものづくりセンター チーフエンジニア

1998年、本田技研工業(株)入社。3代目USオデッセイ、クロスロード、2代目インサイトの車体設計を担当。初代ヴェゼル、11代目シビックの車体設計LPL代行を経て、同・開発責任者を務める。趣味は旅行とジョギング。愛車は初代ヴェゼル。